

令和4年度 瑞浪市立瑞浪南中学校 学校評価書

学校経営の重点	具体目標と指標	評価	目標の達成状況・取組状況・結果分析	改善策(次年度)	学校関係者 評価委員会
定着させる教科指導 知識を吸収する手段を広げ、その知識を活用しながら習熟を図る教科指導	1 個に応じた学力の定着を確実にするための指導改善プランの実施 ①個に応じた学習課題を明らかにし、単元毎に学力の定着を見届ける。	B	一単位時間で目指す姿を明らかにし、挙手発言が仲間との交流を生む授業を生み出したことで、進んで発言しようとする主体性が生まれ、それによって交流が深まり、学力の定着が図られた。	・子供の願いと教師の願いを一体化させた課題設定と課題解決を図る教材研究。	B
	2 知識の吸収と習熟を図るためのICT機器活用 ①英語・数学のデジタル教科書を利用した習熟を図るためのICT機器活用。 ②いつでもどこでも多くを学べるタブレット活用の可能性を広げていく。	B	教科に応じた「ICT機器」を活用した学習を行った。タブレット等の使用が日常になった今後は、ICT機器の効果的な使い方と学習の定着の関連性について検討し、さらなる定着を図る。	・より具体的・効果的なICT機器の活用。 ・定着を図るための工夫。	B
つなげる生徒指導 多様な他者を理解する交流を通して、人とのパイプを増やし、関係を強くする生徒指導	1 仲間と自分を理解し、活動を通してつなげる生徒指導の推進 ①校風づくりの4本柱を軸とした活動を継続することを通して、学級の凝集度を高める。 ②道徳的価値を踏まえた見通しのもてる学級経営案の提案。	A	主体性を育むことを重点に、PDCAサイクルを活用した学級経営案を作成・見直しを行った。生徒会が主体となった行事を計画・実施した。各学級の軸となる活動を設定し、継続して取り組んだ。	・学年・学級間での相互参観の実施。	A
	2 幅広さと柔軟な人間関係を育てる道徳・特活の充実 ①道徳のカリキュラム・マネジメントの研究を通して、多面的・多角的な見方を身に付け、人とのつながりを強化していく。	A	背面掲示に道徳授業の板書写真を掲示したり、学年・学級経営案の道徳の目指す姿を見直したりしたことによって、集団の凝集度を高めることができた。	・生徒会主導による行事や取組の計画・実施。	A
安心できる教育相談 誰にでもある不安を和らげるための「避け方と向き合い方」を共通理解する教育相談	1 避け方と向き合い方を身に付ける教育相談の実施 ①教育相談の共通理解を図る場としての学年主任会を充実させ、職員間情報交流を確立。 ②関わりの対象を増やす・危険を避けるためのソーシャルスキルトレーニングの充実。	B	心のアンケートや個人懇談の様子から、声かけや個別対応など、早急な対応を心がけた。 保護者アンケート「学校の相談体制」 A24% B65% C9% D1% 欠席者等への電話連絡や家庭訪問、オンラインによる授業のライブ配信等を行うとともに、生徒の情報共有を図った。	・SCや学業支援員等も交え、情報収集をし、職員会・打ち合わせ等で共有。 ・組織的で継続的な指導による見届けと検証。	B
	2 避けるモラル・繋げるスキルを身に付ける情報モラル教育 ①タイムリーで系統的な情報モラル指導の計画と実施。 ②PTA活動の重点として情報モラル指導を広げる。	A	PTAの重点活動を「情報モラル」とし、ICT通信の発行や、保護者と生徒によるパネルディスカッション等により、意識の高揚を図った。	・学年主任会・教育相談委員会を定期的に開催し、情報の共有・共通理解を図る。	A
学校教育の基盤	地域・保護者との連携 ○アウトプットによる「胸を張れるふるさと教育」、「サロンド南作品展」、「南中オープンスクール」 ○情報モラルをPTA活動の重点とした地域連携の強化 ○ゲーム・ネットよりも読書量を増やしていくための保護者への啓発とPTAとの連携	A	地域の人材を活用した「オープンスクール」、「サロンド南」による「ふるさと教育」を実施した。特に「サロンド南」では、生徒の思いを地域の方に積極的に話す機会を設けたことで、生徒の自信となるとともに、地域の方への学校の取組を発信することができた。	・地域の関係諸機関との連携強化と「ふるさと教育」の継続・充実。	A
	○道徳教育情報を発信する広報の強化(HP/Cocoo) ○学校行事の動画配信	A	コロナ禍のため、ボランティア等の活動は制限されたが、家庭や地域と学校での活動の様子を共有できるよう、情報発信をした。	・「学校—家庭—地域」の連携を図る情報発信。	A
	危機管理意識の高揚 ○感染症対策 ○特別支援教育の指導力向上研修 ○保護者や地域からの相談・情報提供への初期対応	A	「マスク着用」「手洗い・うがい」「消毒」「換気」など、安心安全な生活への取組を実践した。 保護者アンケート「安心安全な学校」 A55% B40% C5% D0%	・コロナ禍における安全安心な生活の生み出しと対応の徹底。	A
チームとしての職員体制 ○生徒一人一人にあるよさを引き出し、仲間とのパイプをつなげられるように指導する職員集団 ○「毎日相談、直ぐに連絡、時々報告」の職員ネットワークの充実	A	生徒指導対応事案については、「報一連一相」の徹底が図られた。担任→学年主任→教頭→校長の連絡系統はそのままに、緊急性によっては、臨機応変な対応ができるよう職員の意識深化も図っていく。	・未然防止や即時対応の重要性について職員研修等で共通理解。	A	